

第4回下田歌子賞 最優秀賞に瀬瀬さん(武並小)・小林さん(恵那西中)



最優秀賞を受賞した皆さん(右から瀬瀬友華さん、小林将也さん、田城寛さん)

11月26日、岩村町出身で実践女子学園など女子教育の先駆者下田歌子先生の功績をたたえる第4回下田歌子賞の表彰式・記念フォーラムが、東京都野市の実践女子大学で開催されました。エッセイの部では、全国から計776点の応募があり、最優秀賞には、小学生で瀬瀬友華さん(武並小6年)、中学生で小林将也さん(恵那西中3年)、一般で田城寛さん(大分県国東市)が選ばれました。式典には、市内からの約50人を含め、約350人が参加し、表彰のほか記念公演、パネルディスカッションが行われました。最優秀賞を受賞しました2作品を紹介します。問い合わせ 文化課 43 2112

【小学生の部】最優秀賞

おばあちゃんは絵手紙先生 武並小学校6年 瀬瀬友華さん

あなたは、自分のおばあちゃんのことを好きですか。私は大好きです。なぜなら、祖母は私に絵手紙を教えてくれるからです。

私は、祖母にすすめられて、二年生のころから毎年夏休みに絵手紙を描いています。祖母は、

「友華は、大勢の人にお世話になっているから、その人達にお礼の気持ちを伝えるような絵手紙を描くとい

いよ。」と教えてくれました。そこで私は、一生懸命絵を描き、絵に添える言葉を考えました。

二年生の時は、大おばあちゃんの絵を描きました。私が足が痛い時、しわのある手で何度もさすってくれたやさしい大ばあちゃんです。大ばあちゃんの顔のそばに、『いつまでも元気で長生きしてね。』と言葉を書きました。

三年生の時は、駄菓子屋の「よしべさ」のおじさんを描きました。毎朝登校する時、お店の前で、「おはよう。気をつけて行きよ。」と私達に声をかけてくれるおじさんです。

『やさしいおじさん、ありがと。』と、はがきのすみに書きました。四年生の時は、近所の同級生、香取ちゃんのおじいちゃんを描きました。私を香取ちゃんと同じ自分の孫みたいにかわいがってくれるからです。

そして、五年生になった去年は、祖母の絵を描きました。絵とお花が大好きで、音読や漢字の練習も見てくれるおばあちゃんに、『いつもありがと。』と心をこめて書きました。絵手紙が出来上がると、祖母はいつもより顔をくしゃくしゃにして喜んでくれました。

六年生になった今年は、誰に絵手紙を描こうかなと、今から考えています。

このように、祖母は、私に絵手紙を教えながら、お世話になっている方々との心のつながりを大切にすることを教えてくれました。私は、祖母のおかげで人に感謝の気持ちを伝えることはすばらしいことだと知りました。

エッセイの部入賞者

(恵那市関係分)

小学生の部

【優秀賞】

熊谷颯人さん(吉田小学校4年生)

「病と闘う祖母から学んだこと」、

鈴木麻友さん(岩邑小学校5年生)

「おじいちゃんに教えてもらったこと」

鈴木悠女さん(岩邑小学校5年生)

「家族」

【入選】

伊藤宗人さん(岩邑小学校5年生)

「ありがと」

加藤廷卓さん(大井第二小学校4年生)「お母さんに教えてもらったこと」

縄田乃里枝さん(大井第二小学校5年生)「お父さんから教えてもらったこと」

西尾美保さん(岩邑小学校5年生)

「おばあちゃんに教えてもらったあみもの」

中学生・高校生の部

【入選】

丸山智子さん(山岡中学校2年生)

「おばあちゃんの教え」

一般の部

【入選】

服部ゆかりさん(岩村町)「母に捧ぐ」

【中学・高校生の部】最優秀賞

米作り

恵那西中学校三年 小林将也さん

僕は田んぼが好きです。と言うか米作りが好きです。祖父は田植えが終わると朝、晩欠かさずに田んぼの水の見回りに行きます。これが稲刈りまでの毎日の日課になっています。そして、稲刈りの時期になると今度は大雨や台風の心配をしています。

「去年は、肥料のやりすぎで稲が倒れてしまったから今年は、やりたい気持ちで我慢したから大丈夫だろう。」

と言っているのに毎年、倒れてしまう稲。それをコンバインで見事に刈る祖父を見て、僕も祖父みたいにになりたいと思っていました。

その祖父も、もう七十歳です。僕は祖父の意思を受け継いで美味しい米が作れるようにになりたいと思っています。そして、稲を自分の子供のように思い毎日、惜しみなく世話をしている祖父を僕は誇りに思っています。

今は農家を継ぐ人が少なくなってきています。農作業は決して楽なものではありません。でも、僕は家族とする農作業が大好きです。

のだと思いました。

この時に脱穀機と言う物を始めて見ました。とても古い物で、今の大きな機械とは全く違っていて格好悪いと思いました。でも、よく見ると色んな工夫がしてあり、これがコンバインの元祖なんだと思うと何故か立派に見えました。刈り取った稲のハザ掛けだって、ただ乾かすためではなく、きつと自然の太陽の恵みで乾かした方が栄養価とかも違ってくるし、何よりも味が違い美味しいと思います。しかし専業農家も少なくなり、農作業も機械化されていく姿を見ると、ちよつと寂しく感じられますが、米を作る事には変わりはありません。そして、大事に育てた米だからこそ絶対に美味しいはず

です。そして、みんなが一生懸命働いている姿を思い出すと、決して米を粗末には扱えなくなります。家庭科の実習の時に、米を研ぐ水で米がこぼれてしまいました。その時、僕は一粒ずつ丁寧に拾い集めていました。みんなが苦労して作った米は、とても大切なものだと思うことを僕は祖父から教えてもらいました。

これからは、この祖父の田んぼへの思いを今度は僕が受け継いで、自分の子供にも米作りの素晴らしさをおしえていこうと思います。